

全員で続ける決断 激励や応援が力に



●なかたいら・たけお●二子漁業生産部部長。漁業再生に向け、力強く地域をけん引。二子朝市や漁業体験など、交流活動にも力を注ぐ

■**中平部長** 津波の被害を目の当たりにし、ただただすごいなという思いでした。このままではいけないと思い、3月17日と19日に臨時総会を開き、そこで全員で漁業を続ける決断をしました。

その後すぐに地域総出でがれきなどの片付けに取り掛かったのですが、そのとき、水槽の中にアワビが2個、ナマコが1個残っていたんです。それを見た生産部員が「また朝市をやれということでないか」と言い、会議の中でも話題になりました。もちろんお客さんの期待に応えたいの思いもありましたが、これが一つのきっかけとなり、みんなでもまた朝市もやってみようということになったのです。

しかし漁も十分にできず、売り物もない状態。悩みに悩んだ末に思い切って、5月5日に朝市を開きました。不安もありましたが、お客さんからは、たくさんの激励の言葉をもらい、本当に、本当に感激しました。朝市開催に向けた市の応援も力になりました。本当にありがたかったです。



5月5日の二子朝市。大勢の人が訪れ大盛況

■**久慈部長** 津波によって周りの生産部はほぼ全ての船を失いましたが、ちょうど川津内では、しげに備えて船を道路まで上げていたため9割の船が残りました。

ただ、どこを見ても大変な状態です。自分たちの被害が一番軽いことから、人に頼るのではなく、まずは自分たちで立て直そうと考え、3月20日からがれきなどを片付け始め、材料なども持ち寄って復旧作業を進めました。

その後、船を出せるようになった段階で港内のテトラポットなどを市に引き揚げてもらいました。幸いウニ漁にも間に合い、徐々にタコ漁なども再開することができました。

回復は着実

■**市長** 再起に懸ける皆さんの強い思いに敬意を表します。特に大きな被害を受けた漁業ですが、震災後の水揚げはどのような状況でしょうか。

■**嵯峨参事** 魚市場は4月10日の開場予定でしたが、幸い油と氷が確保できたため、3

■**市長** 多くの企業が立地する沿岸部は産業振興と雇用の拠点でもあります。その中で水産加工業は漁業と密接に関わるものですが、現在の復旧状況を教えてください。

■**嵯峨社長** 残った第一工場の設備を早急に修理し、サケの加工を始めました。県内の同業者の中で最も早く再開し、努力した結果、稼働する工場が減ったにも関わらず、イクラの加工量は平成22年と同等です。社員は夜を徹して頑張ってくれました。これが必ずや今後の販路拡大などにつながると信じています。

状況は厳しいですが、年度末までに良い結果を出し、頑張ってくれた社員に伝えられればと思っています。



喜ぶ子どもたち 多くの魅力が海にある

●くじ・ひでお●川津内前浜漁業生産部部長。地域の漁業をけん引。民泊や漁業体験の受け入れについてもリーダーシップを発揮する



地域が丸となり実現させた10月のツアー。サップ船での遊覧体験に子どもたちは大興奮

■**市長** 復興には、内外の人たちとの交流活動も必要と考えています。待浜町では10月に海での体験や民泊を受け入れましたが、子どもたちの反

広がる交流

ら一部稼働を始め、生産に取り掛かりました。工場の立て直しに当たっては、津波から機材を守るため、全機材の配置換えを行い、特に高価な機材は新工場に備え付けることにしました。

土台をかき上げし、12月に完成した新工場は、今回の津波でもぎりぎり防げる計算です。生産能力もアップし、雇用も30人ほど増やしています。

月30日に前倒ししました。最初は5隻程度の操業でしたが、4月に入ると20〜30隻に。水揚げにも恵まれ、良いスタートを切る事ができました。

その後、函館義援船のおかげで6月下旬からはウニ漁も再開。定置網漁も大半が11月までに再開できました。サケの水揚げは平成22年度の約8割と少なくなっていますが、イカ漁では外来船、サンマ漁では大手量販店からの支援もあり、例年以上の水揚げがありました。

11月末現在の全体の水揚げは数量1万トン、金額22億円で、前年度並みです。大きな被害を受ける中、漁業者が頑張り、それに価格も応えてくれたのかなと考えています。

漁業者の奮闘と全国からの支援により、回復を見せる久慈港の水揚げ量



水揚げ回復、工場再開 これが復興のスタート



●さが・まつお●久慈市漁業協同組合参事。漁業再生に向け各生産部と共に奮闘。再開した食品工場、冷凍工場の操業アップも目指す

応などをお聞かせください。

■**久慈部長** 平成22年に葛巻町の子どもたちを受け入れたのに続き、大変な状況ではありましたが、10月に地元の待浜小学校の6年生を地域で協力して受け入れました。

沖から地元を見るのは初めての子どもが多かったようで、特にサップ船の遊覧は喜ばれました。その後も海水プールでは魚のつかみどりをし、民泊では子どもたちも魚をさばいたり、料理などをしました。手を叩いて喜ぶ子どもたちの生き生きとした表情が印象的です。海にもたくさん魅力があり、スタツフもいます。今年は山だけでなく海にも教育旅行などのお客さんを連れてきてもらいたいですね。

■**市長** 子どもたちを感動させる海の魅力。他の地域から来た子どもたちにはもつと大きな感動を与えるのではないかと、市も一生懸命取り組んでいますので、地元でもいろいろ工夫を凝らしてもらえればありがたいと思います。

次に二子朝市ですが、一年間を振り返ったとき、どんな思いがありますか。